

みんなの知りたい! なんでも Q&A

岡本学芸員

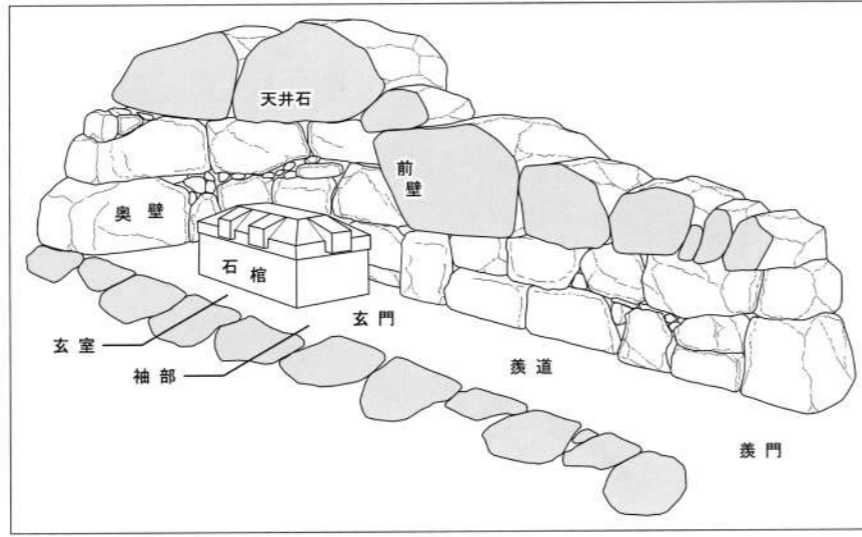


3世紀後半から7世紀、日本列島の広い範囲で、その地域の有力者によって「古墳（こふん）」とよばれる土や石を盛り上げて造った大型のお墓が築かれた。今回は、古墳内部の遺体を収める部屋、横穴式石室についてお話しするよ!

Q.横穴式石室って何ですか?

横穴式石室とは、古墳内部に築かれた、遺体を収める部屋のことだよ。北部九州では、4世紀に朝鮮半島から取り入れられ、古墳時代後期・終末期(6~7世紀)になると、それ以外の多くの地域の古墳にも採用されたのよ。

横穴式石室以前の遺体を収める施設は、完全に遺体を古墳の中に封じこめてしまうものだったけど、横穴式石室は古墳の側面に入り口があることから、一人の遺体を埋葬した後に、別の人を追加で埋葬することができるようになったのよ。



横穴式石室の構造(大阪府立近つ飛鳥博物館編 2007「横穴式石室誕生―黄泉国の成立―」)

Q.徳島県には、どんな横穴式石室があるのですか?

徳島県内の横穴式石室は、その形によっていくつかのタイプにグループ分けされているわ。中でも有名なのが、美馬市の国史跡、段ノ塚穴(だんのつかあな、棚塚=たなづか=と太鼓塚=たいこづか=の総称)に代表される「段ノ塚穴型石室」よ。段ノ塚穴型石室は、6世紀前半に出現し、ドーム型の天井・太鼓のように中央部が張り出した床の形(=石室)の一番奥の壁に石棚(いしだな)をもつものがある、といった特徴を持っているの。段ノ塚穴は6世紀後半につくられたもので、太鼓塚の石室は四国ではトップクラスの大きさよ。



段ノ塚穴(棚塚と太鼓塚)



太鼓塚の石室入り口



棚塚の石棚



太鼓塚の奥壁

1000年以上前の古墳
が残っているんだね!

Q.横穴式石室からどんなことがわかるのですか?

横穴式石室の形には古墳が築かれた時期や、古墳を築いた勢力がどのような集団であったのか、といったことが反映されていると考えられているわ。たとえば、段ノ塚穴型石室の特徴は、和歌山県や熊本県の石室と類似していることから、これらの地域との関係を指摘する説もあるの。

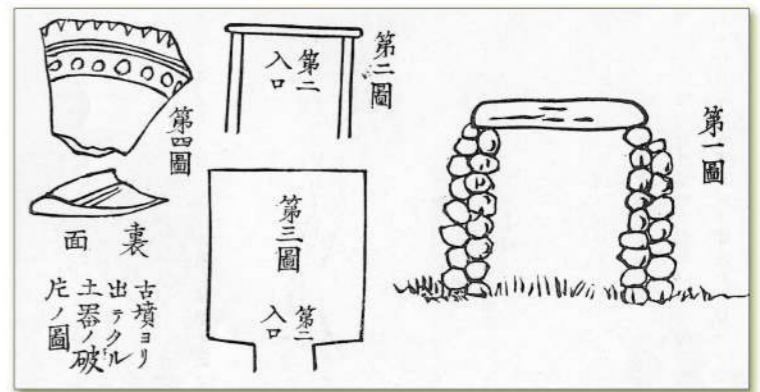
今週のテーマは

横穴式石室

文：徳島県立博物館・岡本治代学芸員
絵・デザイン：徳島新聞写真美術部・大塚吉雄

コラム 鳥居龍蔵(とりいりゅうぞう)の横穴式石室スケッチ

鳥居龍蔵は、明治から昭和にかけて活躍した、徳島出身の人類学・考古学・民族学者です。鳥居は日本国内だけでなく、アジアや南米諸地域までおもむいて現地調査をおこない、人類学・考古学・民族学の発展に大きく貢献しました。また、徳島県でも遺跡の調査を行っており、スケッチとともに横穴式石室を紹介しています。鳥居の調査は、徳島県における古墳研究の第一歩となりました。



鳥居龍蔵による横穴式石室・出土遺物のスケッチ(鳥居龍蔵1894「阿波国二古墳ノ記」『東京人類学会報告』第2巻17号)